



平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 北海道羅臼高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒086-1834
北海道目梨郡羅臼町礼文町9-3

E-mail rausu-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.rausu.hokkaido-c.ed.jp/

児童生徒数 男子59名 女子54名 合計113名
児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 第5回国際野生動物管理学会シンポジウムに参加

平成27年7月28日・29日(札幌市)、本校3年生が幼小中高一貫教育で学習してきた「クマ学習」を、英語を使ってプレゼン、ディスカッションを行ってきた。

地域の自然環境を科学的根拠に基づいて思考・判断・表現する力の向上、グローバル人材育成の第一歩、ESD理念のもと、ユネスコスクール加盟校との連携や同学術学会の専門家とのディスカッションは参加した生徒にとっては貴重な経験となった。

また、12月に実施した羅臼町ユネスコスクール発表会において、町内の小中学生や地域住民に同学会での報告やクマ学習の発展性を示すことができたのは大きな成果であった。



2 高校生チャレンジグルメコンテスト～3年目の挑戦～

「高校生チャレンジグルメコンテスト」とは、高校生の自由な発想によるメニューを創出し、地域素材の新たな活用方法や情報発信、地域の活性化を図るとともに、地域の食と文化について学習することをねらいとし、平成25年度から開催している。

本校もレシピ開発を通して、羅臼町に元気を与え、コンテストを通じて羅臼町を全道にアピールしたいとの思いを強くし、平成25年度からコンテストに参加している。

メンバーは家庭科のフードデザイン履修者とその他在校生から有志を募り、10名～15名の生徒で「創作料理プロジェクトチーム」として活動している。

レシピ開発や商品化に向けて、羅臼町教育委員会を中心に、羅臼町飲食協会、羅臼漁業協同組合など地域から多大なる支援をもらいながら進めてきた。

その結果、H25、H26のコンテストでは2年連続グランプリを受賞するなど、非常に高い評価をいただき、学校、地域の活性化に一役買うことができた。

今年度はグランプリ受賞とはならなかったが、商品開発企画賞を受賞し札幌市内のホテルのランチメニューとして紹介された。

これまでの3年間で、地域の食材を生かし、地域の大人と高校生が協働して開発した商品が高く評価され、学校、地域の活性化につながっている。

これまでコンテストに出品したメニューは羅臼町の飲食店で食することができる。

<高校生チャレンジグルメコンテストの結果>

H25 グランプリ受賞(らうす大漁焼き)

H26 グランプリ・味の匠・ストアオペレーション受賞(らうす紅白揚げ)

H27 商品開発企画賞(らうす豊漁まん)



【写真 左から「H25 大漁焼き」、「H26 紅白揚げ」、「H27 豊漁まん」】

③ 第31次「水産教室」

「水産教室」とは、漁協・町教育委員会の支援のもと、漁業に関する基本的な考え方や知識・技術を学び、漁業の現状について理解を深める授業である。

特にスクーバダイビングのCライセンスを取得することができるのが特徴である。また開級式、閉級式では、地域産業で活躍している方に記念講演を行ってもらい、羅臼の海や川、山などの自然と産業との共生を学び、「羅臼の良さ」を知るふことができる。

(Cライセンス取得者数 H25年度2名 H26年度3名 H27年度9名)



【写真 「ダイビング実習」、「秋鮭の加工体験」、「閉級式記念講演会」】

④ 中高の生徒会交流の活性化

高校の生徒会執行部と連携中学校の生徒会役員が羅臼町の将来像を語り合い、羅臼町が抱えている課題や問題について、グループワークや町行政とのタウンミーティングなどを通して解決策を考えることで、ふるさと羅臼の将来を担う人材育成を目指している。

■ 取組の概要 ■

- ・新役員発足の10月を交流会のスタート、翌年6月の知床開きの活動をゴールに設定
- ・生徒会交流では町教委社会教育主事の進行のもと、羅臼町のイメージについてグループワークを実施
- ・町長とのタウンミーティングを通して羅臼町の



【写真 グループワークの様子】

課題や問題、将来像を協議

- ・知床開きにおける活動（観光産業と環境保全の両立）をグループワークで協議

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)